

今日のトピック 世界の「投信マネー」(2020年3月) リスクオフを象徴するMMFの急増

流入超過額は3,000億ドル超

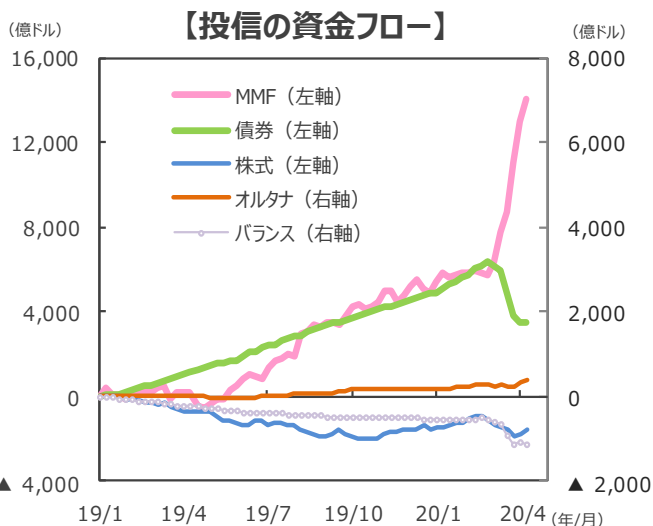
- 3月の投信マネーは全体で+3,198億ドル(前月+856億ドル)でした。「MMF」が+7,227億ドル(同▲2億ドル)とかつてない大幅な流入超となりました。新型コロナウイルスの欧米での感染拡大で世界経済の後退懸念が一挙に強まったこと、主要産油国が原油の協調減産合意に至らず、原油価格が急落したことが背景です。「債券」は▲2,836億ドル(同+706億ドル)、「株式」は▲667億ドル(同+97億ドル)、「バランス」は▲570億ドル(同▲4億ドル)でした。
- 債券ファンドは全地域で資金流出となりました。リスク回避が極端に強まったため、安全資産とみなされる国債ですら売却されました。また、原油価格が急落したため、石油関連企業が多いハイ・イールド社債市場からの資金流出も目立ちました。

株式ファンドは「先進国」よりも「新興国」を選好

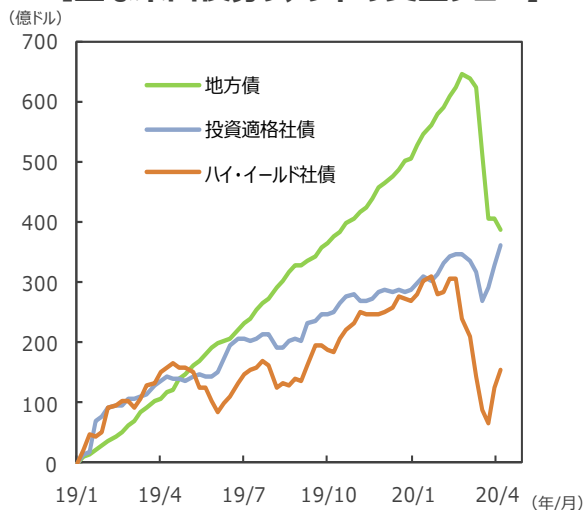
- 株式ファンドは「先進国」が▲553億ドル(同+134億ドル)、「新興国」が▲114億ドル(同▲37億ドル)でした。「先進国」は「グローバル」が▲243億ドル(同+217億ドル)、「北米」は▲217億ドル(同▲20億ドル)でした。「アジア(日本を含む)」は+49億ドル(同▲13億ドル)でした。

4月第1週は社債市場が一旦落ち着く

- 世界景気の減速は4-6月も続く見通しですが、各国の金融・財政政策が下支えすると期待されます。米連邦準備制度理事会(FRB)が企業金融を支える政策を大胆に打ち出したことで、投資適格社債、ハイ・イールド社債など社債ファンドへの資金の流れは落ち着きをみせています。一部に新型コロナウイルスの感染鈍化がみられますが、新たに増加している国・地域もあり、収束にはまだ時間がかかると思われます。引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を睨む展開が続くと思われます。



【主な米国債券ファンドの資金フロー】



(注) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2020年2月末現在27.4兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。データは2019年1月2日～2020年4月8日。週次ベース。2019年1月からの累計。
(出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2020年4月13日 先週のマーケットの振り返り(2020/4/6-4/10)

2020年4月13日 吉川レポート：世界経済見通しの悪化とマネーフロー

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。